

大規模地震を想定した 図上訓練を実施しました



問い合わせ 総務課 ☎2119

自主防災組織育成研修会

6月27日、自主防災組織、自治会を対象とした、自主防災組織育成研修会を開催し、計47人が参加しました。初めに、廿日市市の四季が丘コミュニティづくり協議会会長藤田章さんと事務局長の尾崎節夫さんから「自主防災活動の具体的な取り組みについて」のお話を伺いました。

次に、大竹市の地震・津波ハザードマップを使って「南海トラフ地震の発生を想定した図上訓練」を実施しました。

訓練は地域ごとに8グループに分け、大地震が発生したときに、それぞれの地域で何ができるか、何をしなければならぬかを一人一人が意見を出し合い、班でまとめて発表しました。

具体的な状況に対する各班の対策は次のようなものでした。

状況①

自宅できつろいでいたところ突然大地震が発生した。あなたの地域ではどうしますか。

【地域（りゅう）】

○まずは身内の安全を確保す

る。

○役員は高齢者など要支援者の安否を早急に確認し、避難誘導する。そのときには倒れたブロックなどに十分気を付けて避難する。

状況②

近所のお年寄りがタンスの下敷きになっていたり人が騒いでおり、別の家からは煙が出て大きな火事に発展しそうである。あなたの地域ではどうしますか。

【地域（りゅう）】

○情報が正しいものかどうか確認したうえで、人を集め二手に分かれてタンスと火災の対応をする。

○119番通報し、被害者には声掛けなどで励ます。

○火事の近所の人を避難させ、応援要請をする。

状況③

防災行政無線から「南海トラフ地震発生」津波警報発令に伴う沿岸住民の避難指示「がけ崩れ、地滑りに伴う山間部住民の避難指示」が流れる。あなたの地域ではどうしますか。

【地域（りゅう）】

○要支援者の避難を自治会

の班長、民生委員などと協力して実施する。

○要支援者をリヤカーで移動させる。

○平素から地域の実情に応じて避難場所の管理者と自治会が話し合いをし、最寄りの避難場所を確保しておく。



今回の訓練は、平日の昼間に大地震が発生したことを想定したため、参加者からは「男性の多くが仕事に出ており、地域には高齢者や働いていない女性しかいないので対応が難しい」との意見が多くありました。この意見に対して、四季が丘の町内会長さんからは、学校と連携して子どもを防災活動に参加させることで対応することも必要であるとの意見がありま

した。

参加者全員が「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識を持ち、真剣に訓練に参加していました。

参加者の声

○自主防災組織の必要性を再認識した。

○災害に対する意識が強くなり、自分はどうすればいいのかを考えさせられた。

○図上訓練で各地区の人と話し合い、意見交換ができて良かった。

防災行政無線テレホンサービス

☎210010

毎月の市広報の巻末にも掲載しています

防災無線で流れた内容は、電話（☎210010）および市ホームページ内「市防災行政無線について」で確認できます。